

ベトナム Block B ガス田開発 最終投資決断について

Slide 1

本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。

エネルギー第一本部長の飯島と申します。

3月29日に最終投資決断の適時開示を行いました、ベトナム Block B ガス田開発についてご説明いたします。

Slide 2

まず初めに、ベトナム Block B 事業の権益概要に関しご説明いたします。

Block B ガス田は、ベトナム南西沖 約 330km に位置する海上ガス田であり、推定可採埋蔵量は 3.95TCF になります。これは仮に LNG に換算しますと、年間約 4 百万トンに 20 年間賄うに足るガス量となります。

当社は 100%子会社の三井石油開発を通じ、上流ガス田開発事業と陸上発電所までのガス輸送を担う中流パイプライン事業に参画しております。

権益保有者に関しましては、上流事業は国営企業である Vietnam Oil and Gas Group、通称 PETROVIETNAM がオペレーターとして 42%の権益を保有し、三井石油開発は JOGMEC 様を合わせた本邦勢として、外資筆頭である 23%の権益を保有しております。

同ガス田は、三井石油開発が既に参画しておりますタイ沖ガス上流事業と地理的にも近く、同様の地質構造を有しており、これまで積み上げた同社の知見活用が可能と考えております。

中流事業も同じく PETROVIETNAM がオペレーターを務め、29%の権益を保有し、三井石油開発は外資筆頭である 15%の権益を保有しております。

Slide 3 続いて、ベトナム Block B 事業の開発計画概要をご説明いたします。

ガス田開発を行う上流事業の開発計画では、生産開始までに 37 坑、事業期間累計で 861 坑の生産井の掘削を予定しています。

ガスの生産期間は 2026 年末から 20 年超を予定しています。プラトール期間では、日量 4 億 9 千万立方フィートのガス生産を見込んでおります。

三井石油開発が参画する上流事業及び中流事業における生産開始前の開発費用は、三井石油開発子会社持分で約 7.4 億ドルを見込みます。

同ガス田で生産されたガスは、上流事業の井戸元で PETROVIETNAM へ全量を販売します。その後パイプラインを通じてベトナム国内の陸上発電所群まで輸送され、ガス火力発電に使用されます。

当社は本事業を通じて、経済発展とともに電力不足が喫緊の課題となっているベトナム国内におけるエネルギーの安定供給に寄与します。

Slide 4

本事業に参画するにあたり、当社天然ガス・LNG 事業取り組み方針に関し改めて説明申し上げます。
コロナ後の需要回復に対して、天然ガスの供給不足が懸念される環境は継続しており、当社としても安定供給と需給調整機能への Needs の高まりを感じております。

一方で、低・脱炭素化への社会的 Needs は不変的かつ不可逆的なものであり、「エネルギーの安定供給」と「低・脱炭素化」の両方を高い次元で追求するという、重要かつ難易度の高い課題に当社も直面しております。

エネルギー業界への社会的要求が、「エネルギートリレンマ」という言葉にも御座います通り、エネルギー・トランジションを進める上では、安定供給(Energy Security)、経済合理性(Affordability)、持続可能性(Sustainability)の要素を満たしながら取り組むことが重要であると強く感じております。

エネルギー・トランジションは、一朝一夕で実現されるものではなく、段階を踏んで実現されるものであり、国や地域毎に異なる状況も考えながら適切に進めていく必要があります。

その過程において、天然ガス・LNG は経済合理的に安定供給を果たしつつも、相対的な環境負荷の低さから、現実解として非常に重要な役割を果たすと当社は考えております。

当社はこれまでも天然ガス・LNG をコア事業として取り組んできましたが、改めて今後責任あるエネルギー・トランジションを進めていく上での中心的な戦略領域として、天然ガス・LNG を位置づけ取り組んでいく方針です。

当社が強みを持つ事業開発推進分野に加えて、当社物流機能を活用して強化を図っているトレーディング事業の両輪で進め、既存事業と新規事業の両方において低・脱炭素化を念頭に取り組むことで、冒頭に申し上げた「エネルギーの安定供給」と気候変動対応に向けた「低・脱炭素化」の両方を実現し、当社らしい責任あるエネルギー・トランジションを進めていきたいと考えております。

Slide 5

続いては、先程の「エネルギートリレンマ」に直面する外部環境への対応も念頭に置き、具体的に本事業における戦略的意義をご説明申し上げます。

1. まず、当社はガス田の開発を通じて、経済発展が見込まれ電力不足が喫緊の課題であるベトナムにおいて、電力の安定供給の基盤をつくり、同国の豊かな暮らしに貢献します。
2. また、ベトナムは 2050 年迄のカーボンニュートラルの達成を掲げており、石炭依存度の低減を目指しております。「第 8 次国家電力開発基本計画 (PDP8)」も昨年策定され、Block B ガス供給先の O Mon 発電所群も記載されています。本事業を通じて、当社はベトナムの持続可能なエネルギー・トランジションを支援していきます。
3. 最後に、本案件は三井石油開発が探鉱段階より参画しており、参画プレミアムを払っていない競争力のある事業です。同時に、隣接するタイ沖ガス上流事業で培った知見も活用しながら、外資筆頭の権益保有者として同ガス田の価値向上に努めることで、2026 年の生産開始以降、中長期に亘る安定収益を実現していきます。

以上より、本事業を通じ当社の天然ガス・LNG 取組方針で謳っている責任あるエネルギー・トランジション

の追求を進めていきます。

Slide 6

最後に三井石油開発の事業戦略についてご説明します。

まず、タイ沖上流ガス事業を始め三井石油開発が保有する既存 E&P 事業に、今回の投資対象であるベトナム Block B 事業を加え、安定収益の基盤を構築します。

これらの安定収益を原資に、東南アジアを中心として CCS・CCUS を含む次世代型 E&P 事業への再投資を行い、次世代の収益基盤の構築を目指します。

また、三井石油開発の持つ E&P の知見と当社総合力を高度に融合させることで、「環境と調和する社会」と「安定供給基盤」の実現に継続的に取り組みます。

引き続き三井石油開発を当社 E&P グループの中核企業として位置づけ、当社マテリアリティの実現を通じた社会的価値の創造と課題解決に努めてまいります。

Slide 7

私からのご説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。